

⑦びん沼の生態系

びん沼周辺は、調節池や公園の建設で工事が施されたとはいえ、豊かな自然環境が維持されている地域である。鳥、魚、虫類などの生物、植物の種類も多い。

びん沼の生き物と言えば、まず魚だ。現在は釣りのため漁業組合が養殖した魚の種類を放流しているが、元々びん沼に棲んでいた魚類も多い。埼玉県調査では、シマドジョウ、ウグイ、メダカ、キンブナ、ギンブナ、コイ、モツゴ、タイリクバラタナゴ、ブルーギル、ジュズカケハゼなどの棲息が確認されている。

次に野鳥。やはり、水鳥に特徴がある。コガモ、カルガモが泳ぐ姿、オオヨシキリ、カワセミなども見られる。また、川越市に属する萱沼橋上流の斜面林はサギ（コサギ、ダイサギ）の

コロニーになっていることが確認されている。

手つかずの自然が残っているため、動物も多く出没する。タヌキ、イタチ。ノ

びん沼の自然

鳥の楽園
サギのコロニーも

ウサギ、カヤネズミなど。植物は、湿地帯には、葦（アシ、ヨシ）やマコモが

茂る。やはり県の調査で、絶滅危惧種のオオアブノメも確認されている。土手の斜面にはヤナギ（アカメヤナギ、カワヤナギ）とハンノキがよくみられる。

埼玉県生態系保護協会富士見支部の千種さんに聞く

びん沼自然公園の生物調査をおこなった埼玉県生態系保護協会富士見支部長の千種秀信さんにお話をうかがった。

びん沼自然公園は、生態系の視点からはどのように見られているのか。最初に建設する時、自然公園にするという点とで、私たちも設計に参加しました。私たちとしては、本来の自然公園の形にしてほしかったのです。確かに自然の景観を生かした公園になっていきますが、本来の自然公園



とは遠い部分もあります。たとえば、公園内にウッドデッキができていますが、当初はその周りは水辺にするはずでした。しかし、危ないなどの理由で、埋め立てて今のような湿地帯になりました。園内の遊歩道もアスファルトは自然公園にふさわしくないで、チップを敷くくらいにとどめてほしかったのです。草刈りも、道路沿いは刈っても、刈らない部分も生態系としては残すべきだと申し上げて、行政も納得して1年間はそうしたのですが、住民

の方の反対で取りやめになりました。

森についても、高木だけではなく中低木も織り交ぜながら多様な樹木植えてくださいという立場です。今はその高木が大きくなり、密集してきたので、周辺の住民からも切ってほしいという要望が多いですね。市も来年から予算をつけて伐採するようです。

公園周辺の生態系で特徴は何ですか。

千種 生態系から言うと、野鳥が非常に増えましたね。この近辺で、野鳥の一番の宝庫は秋ヶ瀬公園（さいたま市）ですが、その次に多いに多くなりました。

現在約150種の鳥が確認されています。特に4月と9月に多く見られます。

なぜ鳥の数が増えたのですか。

千種 元々自然の樹木と水辺がある好環境ですが、びん沼自然公園については、木が大きくなったことが鳥にとってよい居場所になっています。



オオバン

性の高い種)も、4種います。絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している主)では、県のマスコットキャラクターにも観察できます。

千種 珍しい鳥を発見するには、かなり経験を積んで

―鳥は渡り鳥ですか。

千種 上空から見ると、水と葦原と森があり、渡り鳥が渡りの途中に立ち寄っていくようになったと考えられます。たとえば軽井沢などに見られるきれいなオオリリやサンコウチョウも渡ってきます。

―珍しい鳥もいるのですか。千種 結構珍しい鳥も来ています。絶滅危惧種ⅠA類(ごく近い将来絶滅の危険性が極めて高い種)に指定されている鳥で確認されているのは、マガン、ヒクイナ、オオバン、オオシシギ、コアジサシ。このうちオオバンは冬場によく見られます。ⅠB類(ⅠAほどではないが近い将来絶滅の危険



シラコバト

プロ的な人が、毎日出向いて観察していないとなかなか難しいですね。

―オオタカが飛来するそうですが。

千種 葦沼びん沼公園のあたりまでは、オオタカがしょっちゅう飛んで来ています。定期回遊しているようです。

―植物はどうですか。千種 元々ある樹木は、湿

地に強いヤナギとハンノキが主ですね。それとクヌギは水に強い。ハンノキは昔は田のあぜ道に生えていて、埼玉県の蝶はミドリシジミという蝶ですがハンノキに卵を産みます。

―水辺に生えているのは。千種 葦(アシ、ヨシ)の他、ガマとかマコモもあります。公園内はどうですか。千種 公園内の木は全部植

絶滅危惧種も多く飛来

てくださいとお願いしています。葦原はそのままにしておくと倒れて積み重なり、遊水機能がなくなってしまうすし、生態系もそのまま維持できません。

また、公園内も生態系としては、森があつて低木、草、湿地があつてという形があつてほしい。全部草刈りをしてしまうというのはよくありません。以前はあ

のあたりにはホタルがいっぱいいたんです。モデルとして北本自然観察公園があります。北本市は、昔の田んぼの谷津の部分

―埼玉県生態系保護協会とどのような組織ですか。千種 元々は日本野鳥の会埼玉支部から有志が自然とか生態系を守る活動をしようとして、1985年に発



オオシシギ

えたものなので、特に珍しいものはないですね

―生態系を守る立場から要望は何ですか。千種 葦原を年に1回は刈

つ



アオサギ

足しました。本部は、その後公共事業に伴う環境調査を請け負うとか、自然のコンサル系の業務とか、県の委託で自然公園を管理するなどの活動をしています。支部は30ほどの市町にあり、地域ごとに自然を守る活動をしていきます。会員は県全体で2000人ほど、富士

見市では40数人です。

―組織の形態は

千種 今は公益財団法人になっ
ています。

―富士見支部では具体的に
どのようなことを。

千種 基軸を、行政への関
与、教育・啓蒙、それから
実際の野や山の維持管理と
しています。あとは、緑地

はどんどん開発されて失わ
れていきますので、10年く
らい前から市に働きかけて
大事な土地が買えるように
基金を積み立てる制度を作っ
てもらっています。この緑

の基金は去年で4億円余り
に達しています。どれを優
先に守っていくかについ
ても私たちも入って意見を
言っています。

―びん沼の自然も守る運動
を。

千種 ここはすでに県と市
の土地ですから、なくなる
ことはないわけです。問題
は生態系の質がいいか悪い
か、つまり、多種多様な生
物が棲んでいるか？という
ことです。そのためには、
水辺・湿地・草原・樹林な
どの多様な環境を創出・維
持していくことが課題と私

は思っています。

―千種さんはいつから生態
系の活動を

千種 10年ほど前からです。
最初は、地球温暖化などの
環境問題から入りました。

―サラリーマンですか。

千種 そうです。婦人服の
会社に勤めています。

―出身は。

千種 福岡県の久留米市で
す。

(掲載した鳥の写真はすべ
て、埼玉県生態系保護協会
富士見支部のホームページ
からお借りしました)